

様式 (7)

報告番号	甲 保 第 4 2 号 乙 保
論 文 内 容 要 旨	
氏 名	栗本 佐知子
題 目	Operating room nurses' classifications in job satisfaction (手術室看護師の職務満足に関わる類型化)
<p>【目的】本研究の目的は、手術室に勤務する看護師が、手術室における職務満足を高め、手術室看護師の職務満足や職場の環境の条件の違いに着目した調査を行い、個人の看護経験年数や職場の環境から各集団の類型化を試み、類型化した手術室看護師の集団群毎の職務満足や職場の環境要件を明らかにすることである。</p> <p>【研究方法】調査対象者は、100床以上の中国四国地区の手術室を持つ総合病院(113施設)の中で同意の得られた82施設1523名であった。質問項目は、基本属性と独自に作成した職務満足・職場の環境・体験・感情の38項目を5件のリッカート尺度法で行った。分析は、基本属性については、単純集計を行ったのち、調査質問紙の信頼性は、因子分析のサンプルサイズの妥当性をKaiser-Meyer-Olkin (KMO)法で確認し、また、因子の信頼性については主因子法のプロマックス回転で因子分析を行いCronbachのα係数を算出した。次に、手術室看護師の職務に対する満足のお考え方の類似性に着目し、Ward法による階層的クラスター分析で分類し、分類された各群の手術室看護師の特徴を明らかにすることを目的に、年齢、看護師経験年数、手術室看護師経験年数、職位、月間残業時間、平日勤務体制、勤務施設の病床数、年間手術件数、手術室看護師数、職場の環境、体験や感情を、χ^2検定で行った。クラスター分類毎の職場の環境、体験や感情の平均値の比較を、一元配置分散分析(群間の対比較にTukeyの多重比較)を行った。統計ソフトSPSS ver. 25を用い、有意水準は5%未満とした。</p> <p>【結果】対象者1177名(回収率83.8%,有効回答率92.2%)から回答を得た。職務満足に基づきI~V群に分類された。5群間で有意差を認めた項目は、年齢、看護師経験年数、手術室看護師経験年数、平日の勤務形態、手術件数の5項目であった(それぞれ$p<0.05$)。職場の環境は6項目すべて有意差を認め、看護師が感じる体験と感情においては、25項目のうち20項目に有意差を認めた(それぞれ$p<0.05$)。類型化した5つの群は、I群(職務満足高く承認されることを誇る型)、II群(職務満足はやや高いが医師や同僚に対する感情最悪型)、III群(職務満足中等度で職場環境適応型)、IV群(職務満足やや低い看護のベテランの業務不満足型)、V群(職務満足最低で手術室でのベテランで業務不満足型)であった。</p> <p>【結論】5群は、年齢構成や看護の経験年数の違い、そして職場の環境や体験や感情において重要視する内容に違いがあることを明らかにできた。さらに、I~V群の手術室看護師集団の特徴を生かした支援を行うことで、手術室に配属された看護師の職務満足を活かした支援となる可能性が示唆された。</p>	